

1 ミドリガメを飼っていませんか

今回は食中毒ではありませんが、サルモネラによる感染症について考えてみます。米国では、昨年から今年にかけて小型のカメやヒヨコによるサルモネラ感染症が流行しています。園や施設全体でサルモネラ感染症の危険性を理解してください。

2 小動物によるサルモネラ感染症

爬虫類（カメ、ヘビ、トカゲなど）や両生類（カエルなど）、鶏やヒヨコ、その他の家禽類は、人のサルモネラ症の感染源となります。

特に、ミドリガメや小型のカメは、小児のサルモネラ症の感染源になります。米国の食品医薬品局（US FDA）はミドリガメや小型のカメの販売および出荷を1975年に禁止しました。しかし、販売が禁止されているにもかかわらず、いまだに、米国では年間1,000万匹が養殖され、日本をはじめ各国に多くのミドリガメや小型のカメを輸出しています。

3 米国で多発するサルモネラ感染症

●カメのサルモネラ汚染

カメなどはサルモネラを保菌していても外観には異常がありません。これらの動物は排泄物中にサルモネラを排出し、排出されたサルモネラによって動物自体やその生息環境が汚染されます。水槽で飼育されている場合は水がサルモネラに汚染され、ヒトに感染することがあります。

昨年から今年にかけて、米国の37州およびワシントンD.C.では、小型のカメまたはその飼育環境との接触に関連してサルモネラに感染した患者計347人が報告されました。

患者の70%が発症前にカメに触れるなどしており、その90%が小型のカメでした。小型のカメの購入先は33%が露店、11%がペットショップでした。

サルモネラ菌は、人に感染すると下痢や発熱など重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、乳幼児、高齢者および免疫機能低下者では、重症化する可能性がさらに高くなります。

●鶏などの家禽類

米国では、2012年に生きた家禽類に関連したサルモネラ感染症が流行し、過去最多となる年間8件発生し、これにより450人を超える患者がありました。

ヒヨコ、アヒルのヒナ、およびその他の家禽類はサルモネラ菌に汚染されている可能性があります。生きた家禽類は、外見は健康で清潔であっても糞便や体表（羽、脚、くちばしなど）がサルモネラ菌に汚染されている場合があります。

ただし、ヒヨコや鶏は、ミドリガメとは違い、飼育することで、卵を産むところとか、どのように育っていくかなど、園児にとってもよい教材になります。飼う場合は、下記の予防法に従って、大人がしっかり管理して、子供たちに触った後の手洗い方法などを教えてください。

4 サルモネラ感染症の症状

最も普通にみられるのは急性胃腸炎です。通常8～48時間の潜伏期を経て発病しますが、3～4日後に発病するものもあります。

症状はまず悪心および嘔吐で始まり、数時間後に腹痛および下痢を起こします。下痢は1日数回から十数回で、3～4日持続します。38℃以上の発熱が特徴です。

38℃以上の発熱があり、1日10回以上の水様性下痢、血便、腹痛などを呈する場合は、重症なので至急医療機関を受診します。対応が遅れると、小児では意識障害、痙攣および菌血症、高齢者では急性脱水症および菌血症を起こすなど急速に重症化してしまいます。

5 サルモネラ感染症の予防法

●カメ類

- ① カメなどの爬虫類はサルモネラを保菌している可能性があることを理解してください。
- ② ミドリガメなどは飼うのを止めてほしいのですが、すでに飼育している場合は、水槽、容器などの設備や用具は定期的に掃除し、清潔にします。
- ③ 園児たちには、カメなどにできるだけ触れさせないようにします。
- ④ 触れた場合は必ず手洗いをします。園児などの手洗いは保育士等大人が確認します。

*飼っているカメは捨てないでください。生き物を飼い始めた場合、最後まで飼い続ける責任を持たなければなりません。どうしてもできない場合は、小児や高齢者のいるお宅は避けて、責任を持って、きちんと飼える人へ譲渡して下さい。

●鶏やヒヨコなど

- ① 生きたヒヨコや鶏などに触った後は、直ちに手指を石鹸と水で十分に洗浄します。
- ② 子どもの手洗いは、必ず大人が確認します。
- ③ 屋外でのヒヨコや鶏を飼育するのに使う檻、餌・水の容器などの設備や用具は毎日掃除し、清潔にします。
- ④ 保育室、トイレ・浴室、台所などの食品・飲料を調理・提供・保存するエリア、および屋外でもテラスなどにはヒヨコなどを入れないようにします。



CDCの写真から